



都心のオアシス区立秋の陽(あきのひ)公園の水田で 区内の小学生約350名が田植えを体験!

と き 5月15日(火) 午前9時30分~午後2時30分

と ころ 区立秋の陽(あきのひ)公園(光が丘2-5-2)

15日、区立秋の陽公園の水田(約500㎡)で、近隣の区立小学校5校の5年生児童約350名が、田植えを体験した。

都会では比較的珍しい田植え体験を楽しみながら、お米の大切さを知ってもらうために行っている。開園(昭和63年)以来、毎年実施しており、今年で31回目を迎えた。

児童は、区職員から田植えの方法や、稲の成長過程について説明を受けた後、裸足で水田に入り、田植えを行った。

水田を管理する東部公園出張所の担当者は、「真剣に田植えに取り組む児童から、お米をすることの大変さやありがたみを感じている様子が見て取れた。収穫まで一緒に頑張りたい。」と話した。



笑顔で田植えを楽しむ児童

【当日の様子】

見事に晴れ渡った青空の下、元気いっぱいの児童たちが水田の前に集合した。

まず、区職員が水田に入り、苗の持ち方から植え方まで田植えの手順を説明。その後、児童が水田に入って一列に並び、一人10株の苗を慣れない手つきで植え付けた。児童は、「今日植えた苗が育って、収穫祭でお餅を作るのが楽しみ!」、「苗の持ち方が難しかったけど、丁寧に教えてもらったので上手に植えられた。」、「お米を作るのが大変だと分かったので、食べ残さないようにしたい。」と話してくれた。



真剣に説明を聞く児童たち

【今後の予定】

今後は、東部公園出張所が水田を管理する。苗は順調に生育すると9月下旬から10月初旬に稲刈りの時期を迎え、約100キ口のもち米として収穫する予定。収穫後は、学校で餅つき大会や給食の材料に使用する。



苗を植えていく様子

【参考1】区立秋の陽公園について(約18,200㎡)

昭和初期の豊かな水田の広がる生活風景をイメージして作られ、「田んぼのある公園」として親しまれている。あぜ道で6面に分けている約500㎡の水田や、農家の長屋門を模した正面入口などが特徴。苗の種類は「まんげつもち」という種類のもち米。

【参考2】参加した学校について

光が丘春の風小、光が丘夏の雲小、光が丘秋の陽小、光が丘四季の香小、光が丘第八小の5校の児童が田植えを体験した。

【問い合わせ】練馬区東部公園出張所 電話03-3994-8141